

学校法人五島育英会 学校評価制度

2021 年度 実施計画書

学校名	東京都市大学二子幼稚園
校（園）長名	細川 秀夫

1. 第2期事業計画期間の教育目標

建学の精神に照らし、次の子ども像を教育目標とする

- ①（健康）たくましい子ども
- ②（知性）観察力と判断力にすぐれ、協力しあって遊ぶ子ども
- ③（風格）意欲的に 志たかく 最後までやりとげる子ども
- ④（自立）自分の思いをはっきり伝え、人の話をよく聞く子ども
- ⑤（感動と畏敬）正しいこと、美しいもの、すぐれたものに感動し素直に受け入れられる子ども

2. 指標（目標）とするイメージ

- ①子どもがいきいきわくわくと遊び、これからの国際社会や社会の変化に対応する「生きる力の芽生え」を育む幼稚園
- ②安心・安全な環境の下、保護者が子どもの確かな成長を感じながら楽しく子育てができる幼稚園
- ③東急グループ、東京都市大学グループ校との連携・協力が園児の健やかな成長を支えている幼稚園
- ④変貌を遂げる（進化する）二子玉川の街にお住まいの方から愛され信頼される幼稚園
- ⑤卒園児の進学割合が、公立小学校：国・私立小学校が1：1である幼稚園

3. 第2期事業計画達成のための重点目標・重点課題及び2025年度達成目標

重点目標	重点課題及び2025年度達成目標
I 良質な教育の実践	<ol style="list-style-type: none"> ① 魅力ある教育プログラムの開発・実践 <ol style="list-style-type: none"> 1. 【課外活動の充実】 社会の変化、保護者ニーズに応える複数の課外活動が実施されている（受益者負担） 2. 【たくましい体づくりの推進】 <ol style="list-style-type: none"> -1 全園児が運動を通して体を動かす喜びを知り、健康な体づくりに取り組む -2 年長児の運動能力が向上している -3 虫歯の割合（乳歯+永久歯）が年長全体の12%以下になっている ② サポート体制の充実 <p style="margin-left: 20px;">【預かり保育の拡充・充実】</p> 預かり保育の利用延べ人数 <ol style="list-style-type: none"> -1 課業期間 4,200人（月・火・木・金 3,800人 水400人） -2 長期休業中（春期・夏期・冬期）600人 預かり保育による年間見込収入合計額 5,200千円 補助金見込額 1,900千円 ③ 教職員の人材育成・資質向上 <p style="margin-left: 20px;">【教員研修の充実】</p> <ol style="list-style-type: none"> -1 外部研修への積極的な参加 -2 都市大グループ職員としての意識向上 ④-1 ICTを利用した教育計画 2024年度 ICTを活用した新しい「課題あそび」を研究開発し、実践に取り組む ④-2 国際化計画 2024年度 卒園時に色や動物などの簡単な英単語の理解や英語による日常の簡単な挨拶ができる

II グループ間連携の深化・拡大	各学校の連携強化 【幼大連携・学校間連携の充実】 -1 幼大連携による学生サポーターの年間参加者数 100 人の実現 -2 等々力中高に加えて付属小または付属中高のネイティブ教員による英語活動の実施 -3 塩尻高生徒の本幼稚園職場体験の実現 -4 付属小内部進学制度の受け入れ上限 (20 人) に近い進学者数の実現
III 教育環境の整備・充実	学習環境の整備・充実 【安心・安全な教育環境の整備】 安心・安全な保育・教育環境が整備され、園庭、保育室内に子どもたちの明るく楽しい声が響き渡っている 効率的業務の推進 【ICT スキルの向上と事務用品の整備】 -1 園業務支援システム (パステル) 等の活用促進を図る -2 パソコン技能の向上を図る -3 事務用品の更新
募集・広報活動	2025 年度目標 志願者数 男子 55 人 女子 55 人 合計 110 人

4. 本年度の施策内容 (達成目標) 及び具体的な取り組み内容

重点目標 I 良質な教育の実践		
重点課題① 魅力ある教育プログラムの開発・実践		
本年度の施策内容 (達成目標)	具体的な取り組み内容	評価の観点
社会の変化、保護者ニーズに応えるスポーツ分野、芸術分野の新規課外活動導入 (2022 年度予定) に向けての研究をスタートする。 ・導入する課外活動の検討	・スポーツ分野ではサッカー、芸術分野では器楽、リトミック、絵画等を想定している。 ・都内の他園実施状況、特に特色ある教育を実践している世田谷区、川崎市の幼稚園に焦点を合わせ、課外活動内容、受益者負担額、環境整備の課題、募集定員充足状況等、多面的に調査する。 ・この導入により本園の教育活動は課題あそび、自由あそび、課外あそびの三本の柱になる。	2022 年度開始の課外教室が決定したか。
本園の教育目標である「豊かな心とたくましい体」の実現に向けて体づくり教育を推進する。 ・体づくり教育プログラムの研究及び編成 ・歯ブラシ教室の実施	・年少、年中、年長の発達段階に合わせた年間の「体づくり教育プログラム」を編成する。 ・正課の中への運動教室設置も検討する。合わせてこのプログラムによる年長児の運動能力向上の数値化も研究する。 ・体づくりに相応しい運動器具・運動備品を整備する。 ・また、幼児期に置ける歯の健康は、体づくりの大きな要素の一つである。年長全体の虫歯の割合 12%以下 (5 歳児の国の虫歯の割合 31%) を目標に口腔衛生の啓発指導、歯ブラシ教室を実施する。 ・学校保健委員会の設置及び年間保健計画を作成する。	・年間の「体づくり教育プログラム」が作成できたか。 ・「正課運動教室」の実施可否の結論ができたか。 ・虫歯予防を含めて口腔衛生の教育ができたか。 ・5 歳児の虫歯の割合の統計化ができたか。 ・学校保健委員会を開催できたか。

重点課題② サポート体制の充実		
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点
<p>預かり保育に対する保護者ニーズは非常に高く、そのニーズに応える。（コロナの影響の少なかった2019年度は延利用者3,200人）</p> <ul style="list-style-type: none"> 水曜日の預かり保育実施 長期休業中の預かり保育日数 <ol style="list-style-type: none"> ①春期 7日 ②夏期 15日 ③冬期 7日 	<ul style="list-style-type: none"> 平常保育の月・火・木・金曜日の正課後の預かり保育に加えて、水曜日の弁当持参の預かり保育を年長対象に実施する。 また、長期休業中の預かり保育を春期7日、夏期15日、冬期7日に拡充する。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中、安全な預かり保育が実施できたか。 長期休業中の春期7日、夏期15日、冬期7日の預かり保育を実施できたか。 2019年度延利用者数の80%の利用者があったか。
重点課題③ 教職員の人材育成・資質向上		
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点
<p>幼稚園と保育園の大きな違いの一つに教育の研究と修養の充実の差がある。良質の教育を提供するためには、教員の不断の研修が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部研修参加延人数60人 塩尻高校、付属中高、等々力中高視察研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 東京都私立幼稚園協会夏季研修、世田谷区研究発表会を悉皆参加とし、参加者数を延60人まで増やし、教員の意識改革を進める。 塩尻高校、付属中高、等々力中高への視察研修各2名を派遣し、都市大グループ職員としての意識向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> オンライン研修を含めて、延60人の参加があったか。 塩尻高校、付属中高、等々力中高への各2名の視察研修ができたか。
重点課題④-1 ICTを利用した教育計画		
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点
<p>ICT化社会の急激な進展は、小中高の学習活動に大きな変化をもたらしている。幼稚園でもICT機器を活用した新しい幼児教育の開発・実践が求められている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した新しい「課題あそび」の研究開発 無線LANの設置・補強 	<ul style="list-style-type: none"> 園内の無線LAN化のためのWi-Fi機器を整備する。これによって、遊戯室で行う誕生会等活動の幅を広げることやリモートによる保育参観を追求する。 併行してタブレットと大型提示装置を使った疑似体験活動や発表会等、ICTを活用した新しい「課題あそび」の研究開発を教務部中心に進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 園内無線LANの整備ができたか。 園内無線LANを活用した教育・保育活動ができたか。 ICTを活用した新しい課題あそびの課題が明確になったか。
重点課題④-2 国際化計画		
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点
<p>社会の国際化の進展を受けて、幼児教室では英語学習が幼児教育の一つの柱となっている。このような状況を踏まえ、本園は国際化教育の中心にサイバードリームによる英語活動を置いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> サイバードリームの継続実施 サイバードリームの外国人講師による英語活動及び教員研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ネイティブ教員の画像と音声流れるサイバードリームによる英語活動を毎日10分間、年少から年長まで継続実施する。英語の音声への耳慣れを通して、正しい発音の基礎を養う。 また、2学期にサイバードリームの外国人講師による英語活動及び教員研修を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日10分間の英語活動が実施できたか。 サイバードリームの外国人講師による英語活動及び教員研修を実施できたか。

重点目標Ⅱ グループ間連携の深化・拡大		
重点課題 各学校の連携強化		
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点
都市大グループ校との連携は本園の重要施策の一つである。 ・都市大人間科学部の Problem-based Learning (PBL) の授業科目に対応するために、都市大2年生のサポーターを受け入れる。 ・等々力中高ネイティブ教員による年長対象英語活動の実施 ・附属小または附属中高ネイティブ教員による年中対象英語活動の実施 ・内部進学制度附属小学校説明会の実施	・園行事を中心として年間学生サポーター100人枠を確保する。 ・等々力中高ネイティブ教員による年長対象英語活動の各学期1回の実施、附属小または附属中高ネイティブ教員による年中対象英語活動実施のための条件整備を進める。 ・6月の内部進学制度説明会で附属小学校の特色ある教育活動の説明時間を設ける。終了後スマホを活用したアンケートを実施する。	・コロナ禍の中、安全なグループ間連携行事ができたか。 ・附属小学校の特色、内部進学制度の理解が深まったか。
重点目標Ⅲ 教育環境の整備・充実		
重点課題 学習環境の整備・充実		
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点
安心、安全、清潔な保育・教育環境が子どもの健やかな成長を支える基盤である。 ・園児用トイレ温暖便座化 ・園庭を見守るカメラの設置 ・長機の購入（年長）	・冬場のトイレ利用の快適さを図るため、トイレを温暖便座にする。 ・園庭あそびのさらなる安全を図るため、園庭の活動を見守るカメラを設置する。 ・子どもの作品を置く長機が老朽化しているため、年長の長機を新規購入する。	・予定通り整備されたか。 ・安全な園庭あそびが行われたか。
重点課題 効率的業務の推進		
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点
2019年度に導入した園業支援システムパステルによって、教員の事務作業の効率化は著しく進んだ。今後もICT化を加速させる。 ・パステル研修会実施 ・パソコン研修会実施	・パステルに係る研修会を各学期1回開催し、操作能力の向上及び条件設定担当教員の育成を通し、更なる効率化を目指す。 ・また、教員のパソコン技能、特にエクセル、ワード等のスキル向上を図る研修会を月1回の職員会議に合わせて行う。講師は本園の教職員を予定する。また、ネットワークやセキュリティの研修については法人職員を予定する。	・各種研修会を計画通り実施できたか。 ・パステル管理者の育成ができたか。
募集広報活動		
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点
区内59園の全体入園手続者数は昨年より264人減少の2,625人で、2年連続の大幅な減である。本年度も定員確保は必須である。 ・コロナ禍の中、安心安全な保育見学会・説明会を実施する。 ・本園の魅力・特長がより分かりやすく発信できる広報活動を実施する。 ・夏期説明会参加家庭数、150を目標とする。 ・志願者数110人を目標とする。	・8月に定員上限35～40家庭とする説明会を6回開催する。 ・スマホからの見易さを追求するなどホームページを刷新する。	・説明会参加数、志願者数の目標数値が達成できたか。 ・ホームページのリニューアルができたか。

その他学校目標		
学校課題① 安心・安全な幼稚園		
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点
<p>本園の感染防止対策に基づき、着実な感染防止、衛生管理を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染防止の徹底 ・防災・防犯・園内事故防止等の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・遊具チェック表及び保育安全指導チェック表等を用いた定期点検を行う。 ・怪我の月別統計等を活用し、怪我の防止を図る。 ・AED 研修等、緊急時対応訓練を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの感染を防ぐことができたか。 ・怪我が減少したか。 ・緊急時の対応が身に付いたか。
学校課題② 「あそびによる学び」のさらなる充実		
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点
<p>本園の教育の特長は「課題あそびと自由あそび」「食育」「本物に触れる教育」「多文化教育」である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、本園の特長の教育活動を維持する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間行事予定をコロナ感染拡大の状況を勘案しながら月別行事予定で確定する。 ・三大大行事「運動会・発表会・音楽会」を保護者参観で行なう。 ・文科省の「学校の新しい生活様式」に依拠し、安心・安全な教育活動を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の行事が円滑に実施できたか。 ・子どもの成長を実感してもらえたか。 ・本園の特長の教育活動が維持できたか。
学校課題③ 幼稚園と保護者との意思疎通の深化と協働による教育活動の実現		
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点
<p>よりよい教育を実現するためには学校と保護者との連携・協力が必要不可欠である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者との意思疎通の深化を図る。 ・「父母の会」との連携・協力を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アプリ「てのりの」を使った保育参観を含め、参観の機会を多く設ける。 ・保護者の心に寄り添う丁寧な面談を実施する。 ・園だより、学年だより、保護者会等で、行事の詳細や園の考え方を丁寧に説明する。 ・三大大行事の衣装づくり等を含めて、行事への協力機会を設ける。 ・卒園児満足度調査を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・十分な保育参観ができたか。 ・面談で意思疎通が図れたか。 ・保護者の協力が得られたか。 ・総合満足度の「満足」が90%以上占めたか。